

平成21年9月

高橋郁子 学位論文審査要旨

主 査 黒 澤 洋 一
副主査 福 本 宗 嗣
同 岸 本 拓 治

主論文

The current status of hand washing and glove use among care staff in Japan: Its association with the education, knowledge, and attitudes of staff, and infection control by facilities

(日本における介護職員の手洗いと手袋の着用に関する研究：教育・知識・態度と施設の感染対策との関連)

(著者：高橋郁子、尾崎米厚、岡本幹三、田原文、岸本拓治)

平成21年 Environmental Health and Preventive Medicine 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は自記式質問紙調査票を用いて、高齢者福祉施設で働く介護職員の手洗いと手袋の着用に関する教育・知識・態度と施設の感染対策について調査し、手指衛生の実施との関連を検討したものである。その結果、介護職員の手指衛生実施率は34.0%と低く、介護職員側の要因としては「感染症は知識があれば予防できると思う」（オッズ比：1.95）などの態度の項目と「教育」（オッズ比：1.38）が手指衛生を促進する要因であった。手指衛生の実施に関連する施設要因では「手洗い評価の実施」（標準偏回帰係数 $\beta=0.42$ ）が手指衛生の実施率と有意な関連がみられた。本論文の内容は、今後、高齢者福祉施設での感染予防に重要な手指衛生を向上するための対策に寄与するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。